

皆さんに分かりやすい 広報紙に

坂本 美樹さん・51歳



えっ、材料が数十種類も！ TONTON汁の材料表を初めて見たとき、正直びっくりしました。もっと簡易なレシピの方が、市民に親しまれそうなのに。ところが、一度味わってみて印象が変わりました。多くの食材のエキスがたっぷり入ったTONTON汁を大釜で味わう市民イベントの素晴らしさ。街の人と知り合いになって、TONTON汁を食べると、これが前橋の味なのかと胃に染み込みます。昔ながらの味をアレンジした新しい時代の前橋の味。材料の数も市民の考え方の数と思うことにしました。

現在の前橋は、新しい市の文化を育て形づくろうとした跡が見受けられます。昔を思いながら、市政の実情などを分かりやすく皆さんに広報できるよう、楽しみながら頑張りたいと思います。

前橋ブランドを 広めることが目標

狩野 有沙さん・20歳



私は前橋国際大で、大学の情報誌を製作する団体に所属しています。大学内のイベントや学生にとって役立つ情報、クーポンを掲載し、紙媒体（フリーペーパー）として年に4回発行・配布しています。今回、市民編集委員として活動することになりましたが、今まで情報誌作りを2年間して身に付けた調査力や意見をまとめる力を生かし、前橋の魅力を市民の皆さんに伝えていきたいと思っています。

大学の活動では、大学内の情報をメインに発信しているため、大学がある前橋についての知識がまだまだ不十分だと感じていました。これから市民編集委員として活動していく中で、新たな前橋を発見し、今まで受け継がれてきた前橋ブランドを広めていくことが私の目標です。

また前橋の大学生として、群馬の良さも同時に勉強できたらとても嬉しいです。

地域の歴史や文化に スポットを

奈良 博吉さん・76歳



私は、古民家やその地区に昔からあるお堂、ほこら、社、道しるべなどに興味があります。それも小規模で、あまり世間に知られていないものです。

私の住んでいる町を例にとると、小さいお堂が2カ所あります。観音堂と薬師さまです。両方とも建物は木造平屋建てで床面積は約2坪ほどの小さなものです。この2カ所で毎年灯籠まつりを実施しています。関係する住民が中心になって、その家族と子どもたちが絵を描き、木枠の灯籠に貼り付けて準備完了。当日の夕方になると灯籠のろうそくに灯をともし、沿道に飾ります。小さな祭りですが、地域住民はみんな楽しみにしています。

こんな各地域の歴史や文化を掘り起こし、紹介するのはどうかと思っています。

皆さんと情報を共有する 橋渡し役に

鷲塚 裕太郎さん・22歳



私はことしの3月に大学を卒業したばかりです。在学中は、昨年10月に開館したアーツ前橋を卒業研究の中心題材として扱い、その中で市民参加という言葉に出会いました。市の職員だけでなく、私のような一般市民も市政に関わり、共同で活動していく。その魅力が市民参加にあると感じています。

今回の市民編集委員もそういった面から、自分の学びを深めるとともに、前橋で起こっている「モノ」や「コト」をより多くの人と共有できるような橋渡し役になりたいです。

また、取材や調査を進めていく過程では、良い面だけにフォーカスせず、直面している課題や問題点にも目を向けていきたいと思っています。もちろん、楽しい広報を目指します。

どうぞよろしくお願いいたします。

8人の市民編集委員が決まる 市民目線で前橋の今を取材します。



公募で選ばれた市民編集委員の8人を紹介します。2年にわたって市民編集のページを担当。今回は、市民編集委員が日頃思っていることや、市民編集委員としての意気込みなどを語ってくれました。

問い合わせは 市政発信課 ☎027-898-6642

市民にとって有用な 情報を伝えたい

中野 和子さん・69歳



一人暮らしになって、家にこもらずに外に向けて一歩踏み出そうと考えていたときに市民編集委員の募集があり、社会参加のいい機会と思い参加しました。

住んでいる地域だけでなく、前橋市全体の活動にも興味を持って参加して、周りの人たちに有用な情報を伝えられれば意義があるのかなと思います。少子高齢化の進む現在、地域社会の中で助け合いの仕組みをつくることができれば、健康で生きがいのある生活ができ、医療保険費や介護保険費の増加が少しでも軽減できるのではないかと考えます。

編集委員の経験はありませんが、勉強していきたいと思っています。

市民の立場で前橋の 魅力を再発見

立田 洋子さん・54歳



毎日愛犬とまちを歩き、その様子をブログに書いています。歳月に埋もれた歴史を掘り起こし、人々や動物たちと触れ合い、美しい四季の風景の中にたたずむと、前橋は住みやすく、素晴らしいまちだとしみじみ感じます。

県庁所在地としては地味な市ですが、私は広報紙の市民編集委員として、今までとは違う切り口や視点でまちの魅力を再発見したいと思っています。来年のNHK大河ドラマに登場する、本市ゆかりの人物たちをからめてみるのも、面白そうな気がします。

市民の皆さんに、楽しく読んでいただける広報紙ができますように。ワクワクの2年間が始まります。

市民が共存できる 基になる広報紙に

久永 孝さん・70歳



市民編集委員になってやってみたいことは、前橋市民による共同体感覚の構築です。科学の進歩は社会の効率化や明るさを追い求めています。

今つながりを求める人たちのSNSなどへの依存は、多くのコミュニケーション依存症をもたらしています。このような社会を皆さんはどう思いますか。私は少数派の共存こそが市民共同の基ではないかと思っています。

そう思って自分は少数派だと気付けば、そのようなつながりがなくても貧困や孤独、被災している人などの共存が可能になるのではないのでしょうか。その媒体となるのが「広報」ではないかと思っています。

読みたい広報づくりを 目指したい

金子 侑司さん・72歳



このたび市民編集委員になりました金子侑司です。よろしくお願ひします。この重責に本当に自分で大丈夫なのかという心配はありますが、乗り切るつもりです。今の社会の変化はすさまじいものがあります。当たり前のことですが人は一人一人興味関心が違います。いろいろな人の興味関心のあることを、公平・公正さを失わずに課題を見つけ、取材をしたい。そして、一方的にならないようにして、その裏側にあるものは何があるのかを探っていきたくたいです。公の広報ですから制約はあると思いますが、新鮮で「読みたい、あってほしい前橋市の広報」を目指したいと思っています。